

18
For Adult

Lyrica! Magical TEANA SAKURAI Henshi! Magical magic girl lyrical Momo's Fan Book This book is a thing for an adult!

リリカルマジカル

ティアナ がんばる



恋愛漫画家

最初は、信じられなかった。
底抜けに明るくて、馬鹿正直で
まっすぐで。

そんな彼女が
「セクハラスバル」なんて呼ばれて
他の女の子にいやらしい事を
しまくってるなんて。

だけど、物理的に近くにいれば
それが事実である事は、嫌でも
分かってしまう。

けれど、スバルは決して
私にその手を伸ばす事はなかった。
もちろん、私が最初から
馴れ合いを拒否したからだが。
それを彼女は律儀に守っていた。

私にだって性欲はある。
ここに来る前から、一人で慰めて
満足する事はあった。

だが、それはあくまで
子供の手遊び程度のものだった。
何となく弄って、何となく
終わるような感じで。

なのに、目の前では
今まで知らなかった世界が
展開されるのだ。

欲求は具体的な形を持ち。
私は絶頂する事を覚えた。

それは、私を微妙に変化させた。

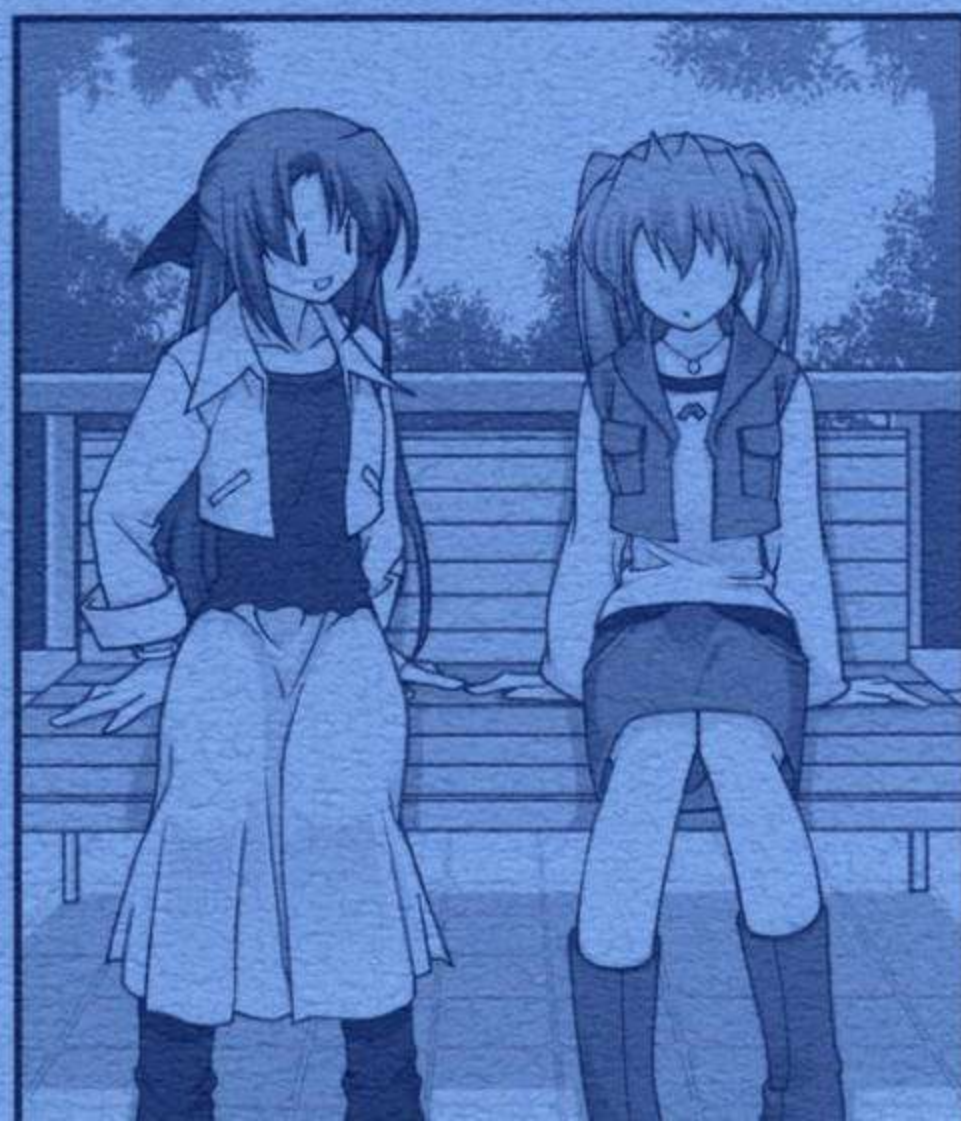
ギンガさんから聞かされた事実。

スバルと性的に交わっている事。
生まれつきの身体の関係で、
性を求めずにはいけない事。

「嫌じゃなかったら」と前置きして
ギンガさんは私にお願いしてきた。

スバルを受け入れる事。

それを素直に了承したのは、
私が絶頂を知ったからかもしれない。





二人が愛し合う場面を撮ったものだった

私は何故か何の嫌悪感もなくそれを見ていた



ギンガさんからは渡されたソシは



全幅の信頼を置けるギンガさんに対して



今より少しだけ幼いように見える彼女

それは見た目だけじゃなく普段と違って甘えた様子だからだろうか



身も心も任せろ彼女

泣き止まずに...

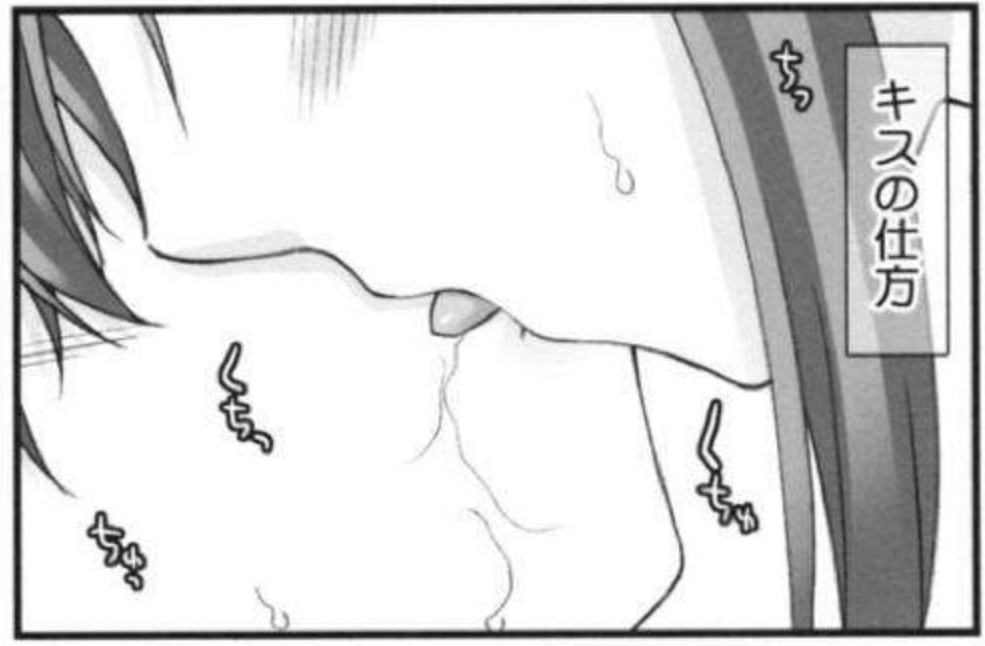


ギンガさんは私にあの子の事を託した
だから私はしつかりと覚えよう

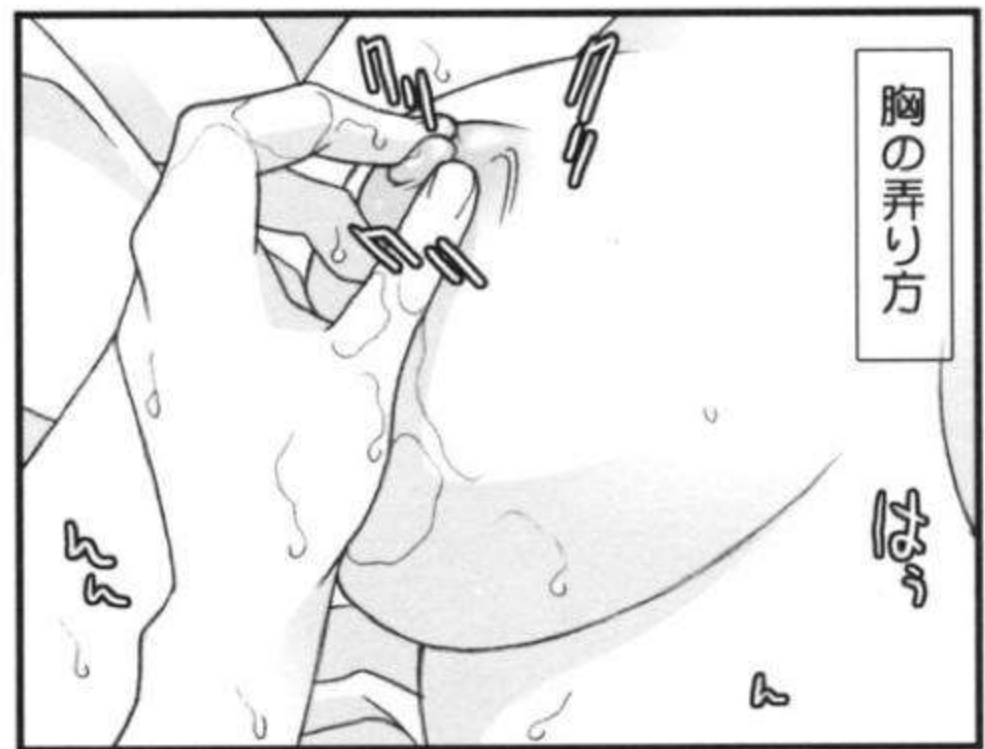


指で...
そして舌で
撫じつて
あ

あ...
あ...
あ...



キスの仕方



胸の弄り方



そして...
秘所の可愛がり方



時は激しく
音が立っている

あ...
あ...
あ...





ん…
体勢を
変えるのかな

ん…
ん…
ん…



足を開いて
下半身を
寄せ合って



女の同士の
くっついて



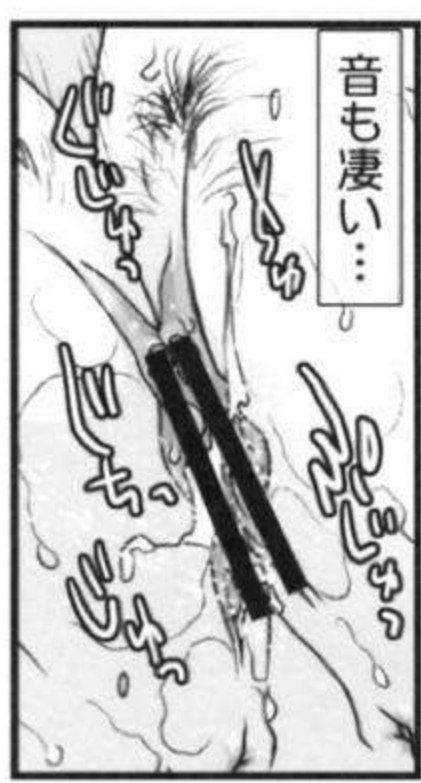
気持ちいいように
擦り合わせてるんだ…

ん…
ん…
ん…

二人とも
凄く昂びてるみたい



濡れてるから



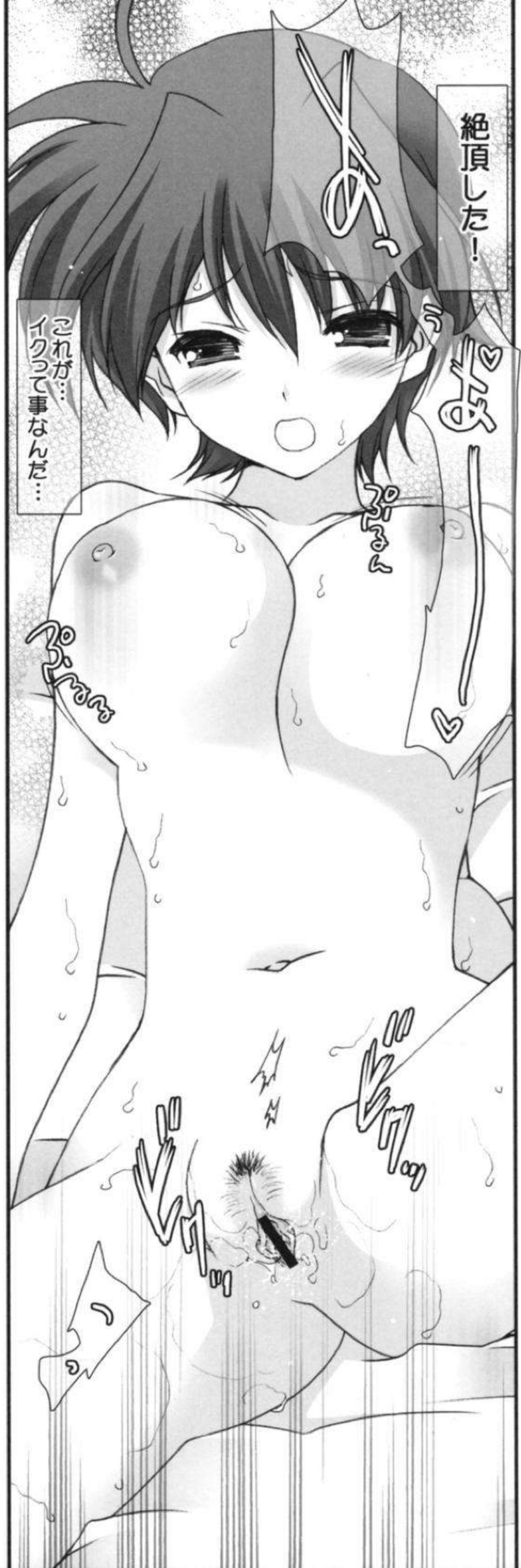
昔も…



あ…
あ…
あ…
あ…

一緒に
ギンガさんも







胸…
いっつもより
気持ちいい



舌を絡めて



情熱的な
キス…



我慢…
出来ない!



すこ…
こんなに濡れたの
初めてだ



名前を
呼び合い
ながら



ん…
ん…

こんな…
知らなかった

あの子も皆さ
夢中になっちゃっつもの
ちよつと分かるかも…



帰ってきてから、案の定
彼女は我慢が出来ずに
あたしが寝ているのを見計らい
(実際は寝た振りをしていただけ)
自慰を始めてしまった。

「ギン姉…大好き…」
発情してしまった時
いつも優しく激しく慰めてくれた
ギンガさんの愛撫を思い出しながら
しているのだろう。
何度も達していた。

「本当に激しいのね」
タイミングを計って声を掛けた。

「う、ランスターさん、これは…」
まあ、驚くのも無理はないか。
こちらの予想以上に狼狽する彼女。
思わず苦笑いしてしまう。

「知ってるわ、ギンガさんに聞いたから」

ギンガさん共々、身体が特殊な事
一度発情すると我慢が出来なくなる事
発情を抑えるためにセクハラをして
ガス抜きをしていた事
家にいる時は自分が相手をしていた事
今日ギンガさんと会った事で
スイッチが入ってしまう可能性が高い事
嫌でなければ相手をしてやって欲しい事

「今までずっとビデオを見てたの」
二人は愛し合っていた。

「それで、何をやるかは分かったから」
「…今だけ、あんたの望むとおりに
慰めてあげる」

しばしポカーンと呆け。
あたしの言葉を咀嚼するように
考え込んで。
「…ホント？」

昨日までの事を考えれば
信じられないのも無理はないだろう。
とりあえず、笑顔で頷いてあげた。





さすがに
いきなり裸で抱き合うのは
ハードルが高いので
自分は着たままだったけど
彼女は随分喜んでくれて
ビデオの中と同じように
絶頂していた

翌日

「スバル」
「ティア」
そう呼び合うようになった

その夜は
あっという間に裸に剥かれ
あたしは
他の人の手で初めて
絶頂させられた
名前を呼ばれながら
何度も達した



だって

ティアの
パーション
もらえるんだよ!



…何よその顔

あたしの裸なんて
見慣れてるでしょ

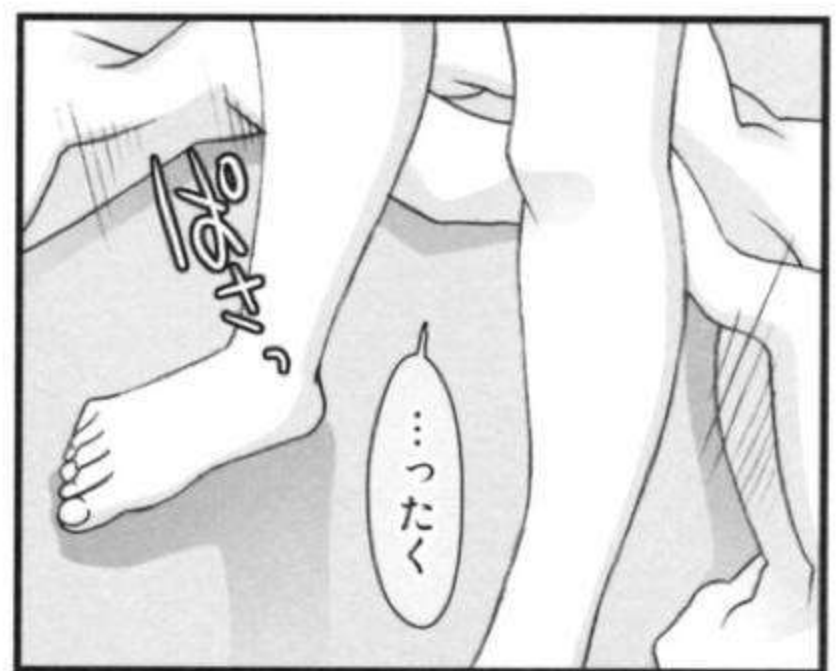


そして…
卒業の少し前



そんな事
ないよ!
メチャクチャ
嬉しいよ!

女の子同士だし
ちよっとした
触れ合いの
延長線みたいなの
もんだし



…ったく



別にそんなの

大したもんじゃ
ないわよ



出来るだけ
痛くないように
優しくするからね

当たり前でしょ
そんなの

手荒くしたら
怒るわよ

この子ったら
嬉しそうなの
顔じやって...

そんなに
あだしの事
欲しかったの
かな...

ぎし



！
何でこの子は
こんな
真つ直ぐ...



ティア大好き！

ん

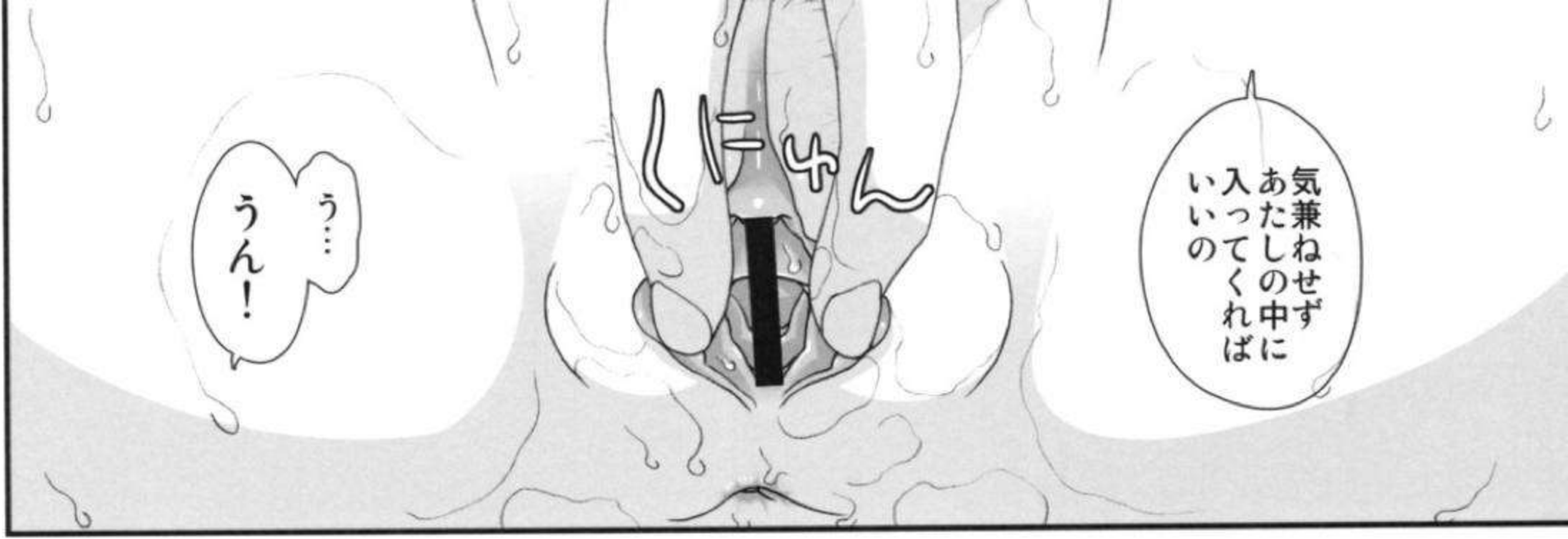


ああもう...
敵わないなあ...

ん

ん





う…
うん!

しゅん

気兼ねせず
あたしの中に
入ってくれば
いいの



けど…
傷つけちゃうよ
ゴメンね

へっ



ティアの
処女膜
きれいで
可愛い…

たま



分かった…
ティアの中に
入っていくよ

あ…
広げられて…
入ってきた…



ん…
迷わないで
一気に入ってきて



覚悟…
決めるね







スバルの事全部受け入れる...



「あ...スバルのアソコクチュクチュ音してる」



「あんなの...」



「スバルに全部任せる」

「...」



ティア：
ゴメンね：
ごめんなさい

バカね：
泣きたいのは
あたしなのに
何でアンタが
泣くのよ

はー
はー
こういう時は
優しくキス
しなさいよ



もう：
そんな笑顔
見せられたら

勝てないわよ
誰も：
あたしも



うん：

ありがとう
ティア

ニこみ。



ティア
大好き！

もう
アンタは
大好きとか
言い過ぎ

えー
だって
好きだもん♡

あたしの事
落とす責任は
取らせなきゃね

バカ：

自分の気持ちは、実はまだ分からない。

スバルは、真っ直ぐに己の気持ちを伝えてくれるけど
果たして、自分は彼女の気持ちに応えられるのか。

「ティアは自分の気持ちに正直にいてくれればいいから」
スバルはそう言う。
「私は、無理にティアの気持ちを変えるつもりはないから」

だが、それはそれで、こう、寂しいような気がするのだ。
…我ながら驚いた事に、寂しいと感じるのだ。

自分は散々人の事を、心も体も、あんなに引っ掻き回しておいて
殊勝な事を言ったところで、それは単なる責任放棄だろうと。

そうなのだ。
少なくとも、スバルが私にした事に対して、
納得出来るまでは、
彼女に傍にいてもらわなくてはならない。

「責任、とりなさいよね！」

END

編集後記

「スバルがんばる」の対になる「ティアナがんばる」でした。
時間軸としては「スバル」の方が範囲が広いです。
今回は六課に入る前に絞りました。

続きも考えてます。
StS本編中と、その後と。
若手4人中心と、なのフェイはやて守護騎士大人グループと
ヴィヴィオルーテシアナンバーズも絡めていきたい。
ああそれなんてオールキャラ。

エロだけじゃなくて一般向けも。
既刊の「SS」のようなものも作りたいです。

やりたいネタがいっぱいあるなあ。
幸せなことです。

次がありましたら、またよろしくお願いします。



制作
恋愛漫画家

発行日
2008年6月15日

印刷
Power Print

連絡先
hironasu@mud.biglobe.ne.jp

HP
<http://www.renai-manga.com/>

無断転載・複製はお止めください

リカルマヅカル ティアナがんばる

恋愛漫画家 成年向

